

差出人: csih@googlegroups.com は 橋本 英樹 <hidekih@wine.plala.or.jp> の代理
送信日時: 2014年12月6日土曜日 0:41
宛先: csih@googlegroups.com
件名: [CSIH] 中部産業遺産研究会 ニュースレター 電子メール版 2014年12月6日発行

////////////////////////////////////
/ 中部産業遺産研究会 ニュースレター 電子メール版 2014年12月6日発行 /
/ //////////////////////////////////////
中部産業遺産研究会にご興味のある方に、このメールを是非転送して下さい。

【中部産業遺産研究会の入会案内はこちら】
<http://csih.sakura.ne.jp/nyuukaiannai.html>

【中部産業遺産研究会のホームページはこちらから】
<http://csih.sakura.ne.jp/index.html>

【CONTENTS】

- 【1】 中部産業遺産研究会・関連団体の行事予定
- 【2】 シンポジウム「日本の技術史をみる眼」第33回のご案内【リーフレットが完成しました】
- 【3】 共同プロジェクト研究公開研究発表会「ガラ紡技術移転に伴うラオス地域社会」【New】
- 【4】 大人の算数・理科シリーズ：モノづくりの原点 第9回／杉本漢三【New】

【1】 中部産業遺産研究会・関連団体の行事予定

- 第132回研究会 2015/01/25(日) 13:00～ 開催予定
- シンポジウム「日本の技術史をみる眼」第33回 2015/02/22(日) 13:00～ トヨタ産業技術記念館
- 第133回研究会 2015/03/22(日) 13:00～ 開催予定
- 第23回総会・第134回研究会 2015/05/24(日) 13:00～ 開催予定

会場は名古屋都市センターを除き予定です。名城大学名駅サテライトにお願いする予定ですが、大同大学や豊田くらし発見館などに変更する場合があります。

【2】 シンポジウム「日本の技術史をみる眼」第33回のご案内【リーフレットが完成しました】

リーフレットが完成しました。
http://csih.sakura.ne.jp/nitigi/nitigi_tirashi33%202014.12.3.pdf

シンポジウム「日本の技術史をみる眼」第33回を下記の通り開催致しますのでご案内致します。

テーマ 「博物館における動態保存のあり方」

趣旨 博物館では機械など本来は動くものであれば動態保存することが望ましい。博物館展示の使命の一つは見学者にいかにも理解しやすい展示方法をとるかであろう。動態展示はその点では格段に情報量が多く、また動かすことに関心も呼ぶことになる。しかし文化財保護の立場からは動かすことは消耗にあたりとされ、また動態整備への

負担や課題も多い。

実際に動態保存・展示している博物館での事例や行政の立場など、さまざまな角度から議論を深めたい。

主催 中部産業遺産研究会
共催 トヨタ産業技術記念館
日時 2015（平成27）年2月22日（日）午後1時～午後4時45分
会場 トヨタ産業技術記念館 ホールA
参加費 中部産業遺産研究会会員 500円（講演報告資料集の代金を含む）
一般 1,000円（講演報告資料集の代金を含む）
○懇親会費 5,000円

参加にはお申し込みが必要です。詳細は次のアドレスをクリックして開いて下さい。

<http://csih.sakura.ne.jp/nitigi.html>

参加申し込みフォームはこちら。

<http://csih.sakura.ne.jp/sympo.html>

技術士資格などをお持ちの方でCPD参加票の発行を必要とされる方は、参加申し込みフォームから発行のお申し込みが可能です。

（公益社団法人日本技術士会中本部に後援の依頼をお願いしております。）

【3】共同プロジェクト研究公開研究発表会「ガラ紡技術移転に伴うラオス地域社会」【New】

共同プロジェクト研究公開研究発表会「ガラ紡技術移転に伴うラオス地域社会」が下記の通り開催されます。

当会副会長の天野武弘先生によるラオスでの活動報告もありますのでご都合の付く方はぜひご参加下さい。

参加無料、申し込み不要です。

日時：2014年12月6日（土）14時～（13時より大学記念館1階にてガラ紡績機の動態展示を行います）

場所：愛知大学豊橋校舎 研究館1階 第1・2会議室

テーマ：ガラ紡技術移転に伴うラオス地域社会

報告者：樋口義治（中産研所長・文学部教授）

駒木伸比古（所員・地域政策学部准教授）

天野武弘（研究員）

高木秀和（補助研究員）

参加無料・申込不要

連絡先：愛知大学中部地方産業研究所 0532-47-4140

【4】大人の算数・理科シリーズ：モノづくりの原点 第9回／杉本漢三【New】

フックの法則

イングランド生まれのロバート・フック (Robert Hooke : 1635~1703) は、オックスフォード大学で針金の引っ張り弾性の研究を行い『応力の値が材料によって定まる一定値、すなわち、比例限度(弾性限界)を超過しない間は、「応力」とそれによって生じる「ひずみ」との比は、応力および材料の種類によって定まる』という弾性法則を実験的に樹立した。

1678年に「フックの法則」として論文に発表して公認された。その実験式は、

$$\delta = PL / AE$$

であり、ここに δ : 棒に生じる全伸び、 P = 棒に作用する引っ張り力、 L = 棒の原長、 A = 棒の横断面積、 E = 材料の横弾性係数。これはモノづくりである機械設計の基礎法則であり、お馴染みの「ばね定数」と同じ感覚で利用されている。

ところで、数学的知識に乏しいフックは、論理的展開の弱さでその後の展開に破れ、王立協会に肖像画が残されることはなかつた。だが「フックス自在継ぎ手」の発明で世界に大きく貢献した。これは鉄道車両、自動車などの動力伝達の駆動軸に多く使われている。でも英国嫌いのイタリア人は「カルダン継ぎ手」というが、日本人は「十字継ぎ手」と

言っている。

--



中部産業遺産研究会のニュースレターは電子メールアドレスをお持ちの会員の皆様に Google グループのメーリングリストのシステムを使って配信しています。

配信元：中部産業遺産研究会 会報編集委員・広報幹事 橋本 英樹

E-mail : hidekih@wine.plala.or.jp

Copyright 2002-2014 The Chubu Society For The Industrial Heritage, Allrights reserved.



このメールは Google グループのグループ「中部産業遺産研究会」の登録者に送られています。

このグループから退会し、グループからのメールの配信を停止するには csih+unsubscribe@googlegroups.com にメールを送信してください。

<http://groups.google.com/group/csih> からこのグループにアクセスしてください。

その他のオプションについては、<https://groups.google.com/d/optout> にアクセスしてください。